

くれワンダーランド構想推進会議について

くれワンダーランド構想推進会議の開催状況等について、報告します。

1 会議の目的

呉市が、都会と変わらない、女性や若者がワクワク、イキイキできるまちになるため、『自然と調和した未来志向の「イキイキした呉」を構築』、『女性と若者のチャレンジ支援と時代を先取る産業の創造』、『世界に自慢できる交流都市への発展』を目指し、専門的な見地や市民の立場等から幅広く意見を求めること等を通じ、くれワンダーランド構想を推進することを目的としています。

2 構成員名簿（50音順・敬称略）

氏 名	役 職 等	備 考
赤川 安正	呉市顧問（大学・研究所誘致） / 広島大学名誉教授	座長
石坂 美苗	呉市民からの無作為抽出により選出	
臼井 純子	NPO法人日本風景街道コミュニティ理事 / オフィス・ウスイ 代表	
郡山 龍	呉市顧問（ICT推進）	
小寺 洋	広島県地域政策局長	
小林 通匡	呉商工会議所副会頭	副座長
下野 隆司	NPO法人 ^{エスワイエル} SYL (Support Your Local) 理事長	
菖蒲田 健太	呉市民からの無作為抽出により選出	
谷山 清己	独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター院長	
丁野 朗	呉市顧問（観光アドバイザー） / 公益社団法人日本観光振興協会特別研究員	
塚井 誠人	広島大学大学院工学研究科准教授	
堂下 大地	呉信用金庫常務理事 / NPO法人くれ街復活ビジョン理事	
平見 絵実	呉市民からの無作為抽出により選出	
三木 英司	日新製鋼呉製鉄所所長	
光井 祐子	任意団体 ^{ファースト} F i r s t e 代表	

3 会議の開催状況

(1) 第1回会議

- ア 開催日 平成30年5月17日
- イ 議事概要 市がくれワンダーランド構想に繋がる取組例を提示し、意見交換を実施

(2) 第2回会議

- ア 開催日 平成30年11月16日
- イ 議事概要 構成員からくれワンダーランド構想の推進に関する提案について説明していただき、意見交換を実施

4 第1回会議の内容

(1) 取組例（市が提示）

「女性起業家創業支援」、「若いうちからの起業家意識の醸成」、「農業×観光（首都圏学生かんきつ栽培）」、「クルーズ船による観光誘客」、「ユニークベニュー※」など

※ 歴史的な建造物、文化施設、公共空間等で、会議・レセプションを開催することで、特別感や地域特性を演出できる会場のこと。

(2) 主な意見等

ア 呉市の観光関係団体や民間事業者など観光に関係する人、観光に興味のある人に参加をしてもらい、呉市の観光に関する連続した講演会や定期的なワークショップを開催してみてもどうか。

イ 観光は、既に体験型に移行している。「この世界の片隅に」のヒットにより、呉を訪れる人がだんだん増えてきている。そういう人に対して、もっといい材料を提供し、呉市内の観光を滞在型にもっていく、訪れる方に感動してもらえるようなストーリーやアイデアが重要であると思う。

ウ 市が中心になってやるばかりではなく、官民共同でやっていくということではないかと思う。市民ができる範囲はあるが、一方で官が応援しないとできないことも結構ある。うまく産学官民連携の仕組みを作りながら進めていくのが良いと思う。

エ 呉の街には、目的もなく歩き時間を過ごせる場所があまりない。大和ミュージアムや入船山記念館など、ポツンポツンといい物はあるが線になっていない。これは途中に見る物、立ち寄る場所、港街としての風景が出来上がってないからだと思う。ウォーターフロントか歴史的まち並みとしての、平面的なまちづくりがなされていないのが、もったいないと思う。

5 第2回会議の内容

(1) 構成員からの提案

分野	提案事項
観光振興等	呉の魅力を増やす，発信する
	瀬戸内海や街並みを生かした観光振興
	観光客を呉に滞在・周遊させる仕掛け（観光案内機能を備えた道の駅・海の駅）の整備
	島嶼部を中心とした体験型観光の推進
	呉市復活新計画 ～ くれワンダーランド構想 ～ まちに笑顔が溢れるイキイキした呉に！ 「大和ミュージアムを起点とした観光ワンダーランドの整備」
	「道の駅」制度を活用した拠点整備
創業支援，社会活動支援等	起業家をトータルにサポートできる支援体制の整備
	“made in KURE” のブランド力の更なる向上
	専業主婦や定年退職後の元気なプラチナ世代が柔軟に働き続けられる仕事の仕組み
大学，研究機関等との連携	大学の誘致等 ・ 呉市役所のデータのオープン化等によるA I 研究所の誘致 ・ 地域に貢献するグローバルリーダーの育成
	広島大学のサテライトを呉市役所内に誘致
情報発信等	子育てや観光などの目的別に呉市ホームページの情報を再編集して活用することを推進

(2) 主な意見等

- ア 今の若者は、テレビよりスマートフォンを見ている時間の方が長い。ハッシュタグや英語表記など様々な工夫をして、SNSを最大限利用した情報発信を行ってはどうか。
- イ 平日でも土日でも、いつ行っても人がいるような、魅力のある道の駅ができれば、観光の一つになるのではないか。
- ウ 大和ミュージアムの近くに観光案内所を設置するという考え方を発展させて、現在、有効に活用されていない中央棧橋に海の駅を設置してはどうか。また、クレアラインの途中、呉ポートピアに道の駅を設置してはどうか。
- エ 市内の移動と滞留の状況を見ると、観光客は「大和ミュージアム」と「てつのくじら館」には行くが、ほかはほとんど行っていない。ミュージアム内への観光案内所の設置や、ナイトミュージアム等のイベントの開催など、大和ミュージアムを起点に市内全体の観光振興を行っていくべきではないか。
- オ 県内の道の駅の設置状況を見ると、広島市と呉市を中心として空白地帯になっている。市内の地域拠点に道の駅を設置し、呉駅を拠点に有機的につないでいくという観点で考えて行くべきではないか。
- カ 起業家をトータルでサポートできるよう、息が長く、横のつながりを意識した体制づくりを進めるべきではないか。
- キ 子育て世代や子育てを終えた世代、定年退職後の世代など、潜在労働力をまちの活性化や課題解決に活かせる仕組みや環境づくりが必要ではないか。
- ク 呉市が保有するデータをより詳細に公開することで、例えばGoogle、Facebook、Amazonなど、公共データを活用した人工知能の研究所などが世界中から呉に集まることが期待できるのではないか。
- ケ 呉市ホームページに掲載している情報を、市民や民間企業が、自らのホームページ等で利用者の目線から目的別に再編集して使用・発信することを推進することで、市民にとって必要な情報が見つけやすくなるのではないか。

6 今後の予定

今後、年度内に2回程度、会議を開催する予定です。

また、構成員の提案や意見を参考にしながら、市民や民間企業のくれワンダーランド構想の考え方に合致する自主的な活動を呉市全体に広げていくための仕組みづくり、環境づくりについても検討を進めます。